

発掘コラム《湯屋の可能性がある中世遺構を検出》伊勢原市上粕屋・和田内遺跡

今回発見されたC1号石組み遺構は、鎌倉時代から南北朝時代の井戸であることが分かりました。今回の調査や第2次調査でも井戸は数多く見つかっていますが、石組みの井戸はこの1基のみです。そのため、普通の井戸とは異なる利用が考えられます。井戸は、第2次調査で発見したC1～3号石組み遺構と近接することから、一連の遺構と考えられます。火処、排水施設、貯水施設（今回発見の井戸）と考えられる遺構が



C1号石組み遺構

まとまって見つかったのは貴重といえます。

調査地周辺は、平安時代末に創建された「極楽寺」が所在したという伝承が残る地域です。調査で平安時代末から中世初頭の瓦が出土していることからも、寺院の存在をうかがうことができます。寺院におけるこれら一連の施設としては、湯屋（または風呂）が考えられますが、厨（台所）などの可能性も考えられます。周辺に所在したとされる「極楽寺」との関連性については、今後さらなる精査が必要ですが、このような特殊な遺構の存在や瓦の出土といった点からみて、調査地が寺院の一角であった可能性は十分高いといえるでしょう。

◆第2次調査で発見した
C1～3号石組み遺構
神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書40
「上粕屋・和田内遺跡第2次調査」より転載



△C1号石組み遺構



中世2面全景

発掘コラム《斜面につくられた古代の住居》伊勢原市 上粕屋・辻遺跡

上粕屋・辻遺跡は小田急線伊勢原駅北西約2.5kmの伊勢原市上粕屋辻付近に位置し、標高50～55mほどの丘陵上に立地しています。

今回の調査では、丘陵東側の緩斜面で古墳時代後期～奈良・平安時代の段切り・溝状遺構・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑などの遺構が多数発見され、集落が営まれていたことが明らかになりました。

竪穴住居跡は8軒見つかりました。規模は一辺5.5～6.5m



遺跡全景(斜面に集落が営まれています)



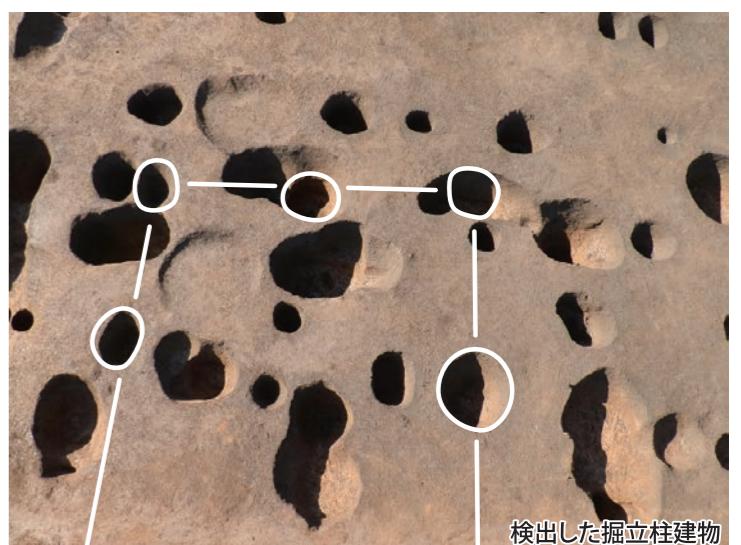
H1号竪穴住居(上がカマド)



住居から出土した勾玉



カマドから出土した土器



検出した掘立柱建物

の正方形を呈するものが主体を占めており、いずれもカマドを有していたと思われます。住居跡からは、甕や壺などの土器のほか、勾玉や刀子などの石製品や金属製品が出土しました。掘立柱建物跡は

全体を確認できたものはありませんが、6棟以上が存在していたと思われます。規模は2間×3間かそれ以上あったと思われます。